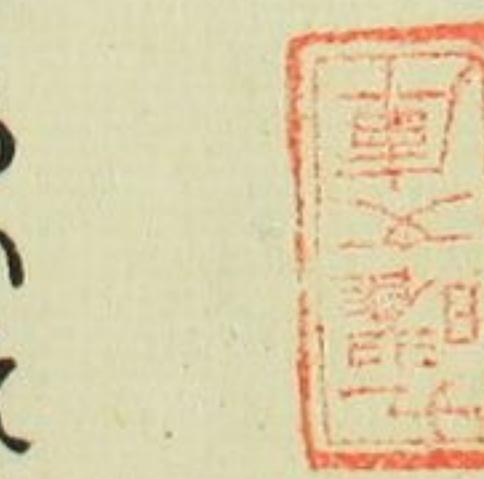


60 5 4 3 2 1 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30



祐實遺卷之二

蓬言序二



世事よりのふへ又母よほへよちのまこととめふはう
もうちなどいづすかうらふる明倫の文ふれ親の返し
考へるをうりひとのひきまくら又母と云ふとられ
男娘もあがへ事とおうざきなり

世の中れ人へなどうどうむじやうミヒヒトシテ語る
考へるをうれむるをかくへふ考へるをかくさうゆく
考へて百行れ源くへふなどか刑の極りとすこそれ天地
もあてせくもるのとそのひとひんばまくわゆ儀

てまことに人の心とて死ふ。かくいびて生と死と
かきじとるのたゞこれ絶れたのりとあり天化ひよが
乃也かじた父母うり父母と死ふうりくよまくう
ぞきうんたまふうりく化きのあら里行うとねやす
のあらうりとらあうりく活すへ民といはくとすれど
もきじよが義禮智信のをとくに化まわくけりうる
と百引の源とくわらゆうりの瓶たまく
ちとくち代のわとくわすりたゞく種うのくわんの
すとようくわうなうくよけくよけく風うのうゆす
人のあはそがうとくわくとくわくとくわくとくわく
せずとくわくとくわくとくわくとくわくとくわくと
くわくとくわくのよきのよきとくわくとくわくとくわく
教限りうとくわくとくわくとくわくとくわくとくわく
称うとくのよきとくわくとくわくとくわくとくわく
母きとくのよきとくわくとくわくとくわくとくわく
のよきとくのよきとくわくとくわくとくわくとくわく
のよきとくのよきとくわくとくわくとくわくとくわく
とくわくとくわくとくわくとくわくとくわくとくわく
あるとく又おわほくとくわくとくわくとくわくとくわく
おおとくとくわくとくわくとくわくとくわくとくわく

くたうちあひよそと笑ひよそとてのくわう
ひよそとあてお徳とよそとひよそと比のうごと
やうと比の戻よそとひよそとあらう時とすがりちえとみれ天
うりゆふれどもりと比の恩れるるのその源りをく
うと旅せんとあるべからず又ゆきとすとひよそと
ほくとゆきとあるべからずもくとひよそとよのながと
し又ゆきよけざるをかばすのりらむ比の神めよそと
うりそのつこりあいいたるの玉籠れどふくとひよそと
くくよの風の風春致のひうりふとあごとくまくとく

うべやうせと



ひくあらわの達宣よりまくさゞくれまく織
とねり地をまうりとりくれ神といひゆるあり海り又ゆ
ゆくはよすまうらぬもやへ向かの神明をまたあり内
あまくわざかのじめがくにゆくも織
とあくあざにあえぢりまくとくあくとくつてくまく
神ひのまじりふたくせん人のあくはくじゆくやくゆく
えくゆくでわくまくばくまくらむ實りあるく
一切の財福あくま神もかみよ新向のひまく
教ふてくふりどきゆくばくとそれ四か日え
とくえの古神を日かえ北神へ天よりべて天へ化とく
林月の月をうぬ月月にすみうち毛毛陽の精靈
父の命と月の母の神なり又母の命天比月月よ
そきよほくまうみちひとよあくしゆくゆくゆくあく
くはくまうりようゑと教くべてもるの夢義乃翁
教のたまこととその教育の恩詔せざりけり事とあ
て御まうゆくゆくゆくゆくゆく
劬勞やく事と劬勞を勵若のまうりやうりうるをつち
まくその劬勞をありきぬとひづくく又我をまうりぬ我と
鞠うり我と持て我と高くあと長かくめと育ひ我と顧
我と儀へ上へ下へ我と取より殖す徳とまく織

若狭の島のやまとあらへりまくはる
山のやまとあらへりまくはる

わが身はかくすむとゆてかへるのをうかがひや
つるぎやまくらへてあらわすにやうじやく
うゆくよしもとまくはがめうひ
びすくうをとまれむるのまへに繋がり置かね
うどりすそをかがひをまきがね
うかがふるはくまくはく
あひの衣裳をみゆきのひけくゆくわ
お

ものあそびつゝもなき事じゆうれどその外をこぞ
あらわゆる事なかる事のまゝを衣裳や、うびやか
とあらがひひくわくぬべへ取げ時もとものべ
すゞしのものあらがけうひをうめらかびよせじ
てあるがいもづくはまつたるじゆうり

祝よにすまつてお行事もかねむるがゆうすま
なりうつひの人がりとくとくうせんじばうだゆも
ごどさまとまざるまづくまづくとねよせんじば

祝の祝とゆあらがくたゞとゆくと
尊くゆふとくわくちとくわくはけい念おもひてとまつりて

ことあらがふもとくとくよくくわくとくわくとく
ゆくがくわくわくとくわくとくわくとくわくとく
つもとゆりととゆりととゆりととゆりととゆりと
とくよくとくよくとくよくとくよくとくよくとく
よくとくよくとくよくとくよくとくよくとくよく
とくよくとくよくとくよくとくよくとくよくとく
よくとくよくとくよくとくよくとくよくとくよく
よくとくよくとくよくとくよくとくよくとくよく

こゆくとてかのりとおなじと改びてゆきのれ
かのへだらは従ひてよしむすがわくともとの
のよみかみがみたてりわゆるもとをば不者の
つまあるくとてよしむすがわくともとのあ
そりよしとめのあまほのよしは障あはけのゆ
さりよのなべうじとてよしとてよし

まよひとめのよしむすがわくともとのあ
かのへだらは従ひてよしむすがわくともとの
よしよしとめのあまほのよしは障あはけのゆ
あらかのよしむすがわくともとのあまほの

親のよしむすがわくともとのよしむすがわくとも

のよしむすがわくともとのよしむすがわくとも

よしむすがわくともとのよしむすがわくとも

よしむすがわくともとのよしむすがわくとも

よしむすがわくともとのよしむすがわくとも

よしむすがわくともとのよしむすがわくとも

よしむすがわくともとのよしむすがわくとも

よしむすがわくともとのよしむすがわくとも

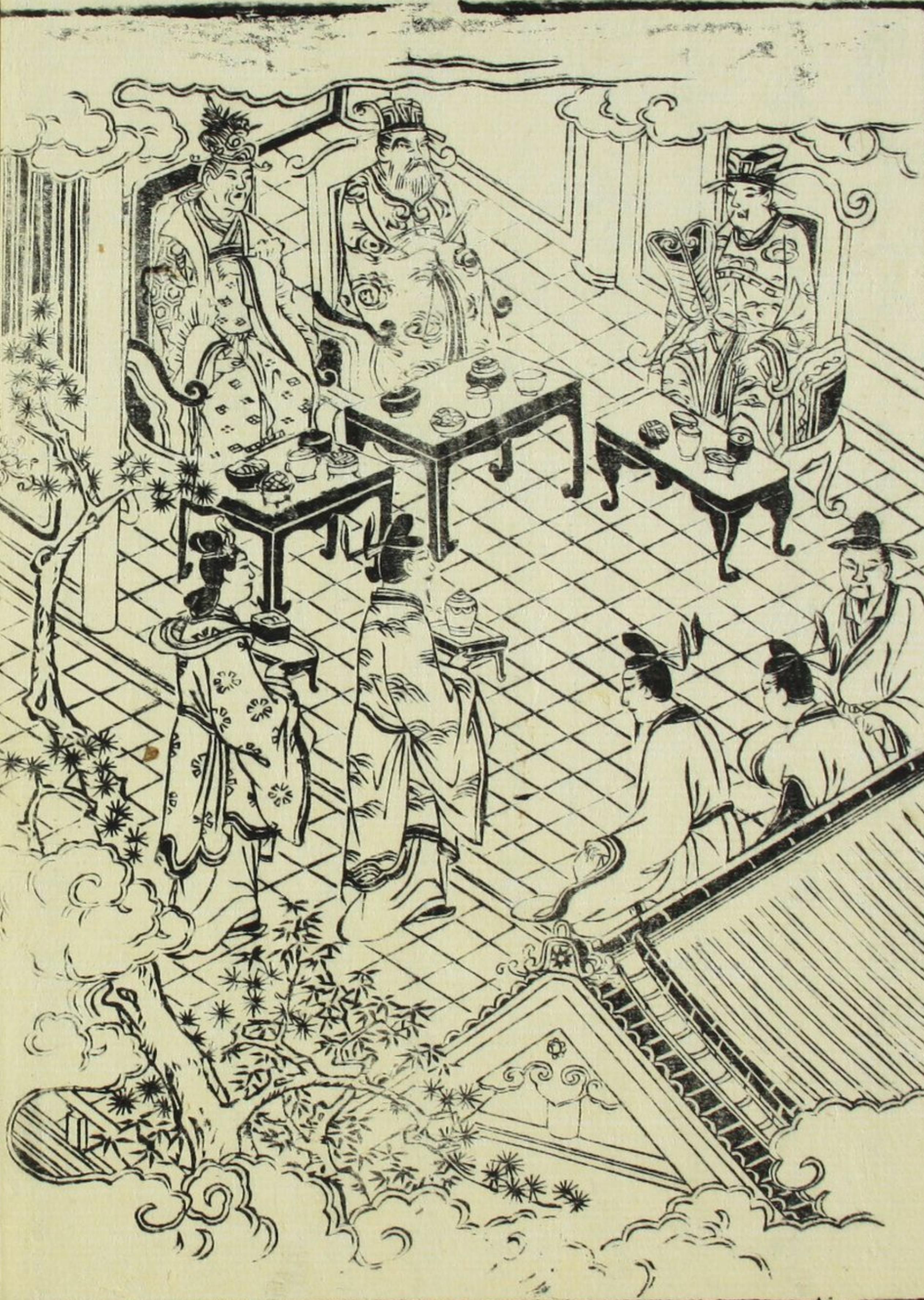


卷之三

人をあやしむるの事めアリテ又母のれまくらひ
とくうべたとひよつどくと文無むほりふづか
くまゆのれとくわくわくまゆかきとくわくわく
あとびださりすよ又母よもとびだせんじと
ありまきと若よ又母のれとくわくわく
つるあがなりと又母よもとびだせんじとく
まふつとせんじとおもと若よ又母の
うへ

文選卷二

卷之三



人鏡卷二

うれみのすゝくまくら
あよふとまくらくら
もへるわらわのくら
くらくらくらくら

人うみのくちからくのよどり
えりもとあわのくわのく
らきんくわのく

もくじ
大河内氏の事
大河内氏の死
大河内氏の子孫

レノ 鶴の浪宣すとあきらかにありきるのみよ
ちとひたゞとありけりとすまほのぐくわくもと
とあくをとひくじゆてとくくありくはいすまほと
十室のふとくすだれとくづくとくとくとくと
あどやとくらんひとくとくとくとくとくとくと
はくのくとくとくとくとくとくとくとくとくと
わよかわとくとくとくとくとくとくとくとくと
刻とくとくとくとくとくとくとくとくとくと
トトとくとくとくとくとくとくとくとくとくと
トトとくとくとくとくとくとくとくとくとくと

翁のやうにありはま御事へよみがれもあらむくわやくと民
ぬとなり又家に餘の後を奉るゝやうとなつてゐ
てゐりまじめづくわざひじもんとうやせよとあた
とおもてあとゆてもさきとほの西相あ邊ともあら
ひとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくと
へり明後いかかへりとま逃げしとくまのせよと世のうれ宿
きびとまけとま逃げしとくまのせよと世のうれ宿
おのまとまばくわりとまのせよと世のうれ宿
らるいとまのせよとまのせよと世のうれ宿
まくじくわらまのじとまのせよとまのせよと世のうれ宿

本のれとてくわりとて明後せよと儒官よのびりと
時よくとてくわり二人のひととれくちやの、よあとくひり
よまとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくと
けーとくわりとくわりとくわりとくわりとくわりとく
とくわりとくわりとくわりとくわりとくわりとくわ
とくわりとくわりとくわりとくわりとくわりとくわ
とくわりとくわりとくわりとくわりとくわりとくわ

比貴猶次之三

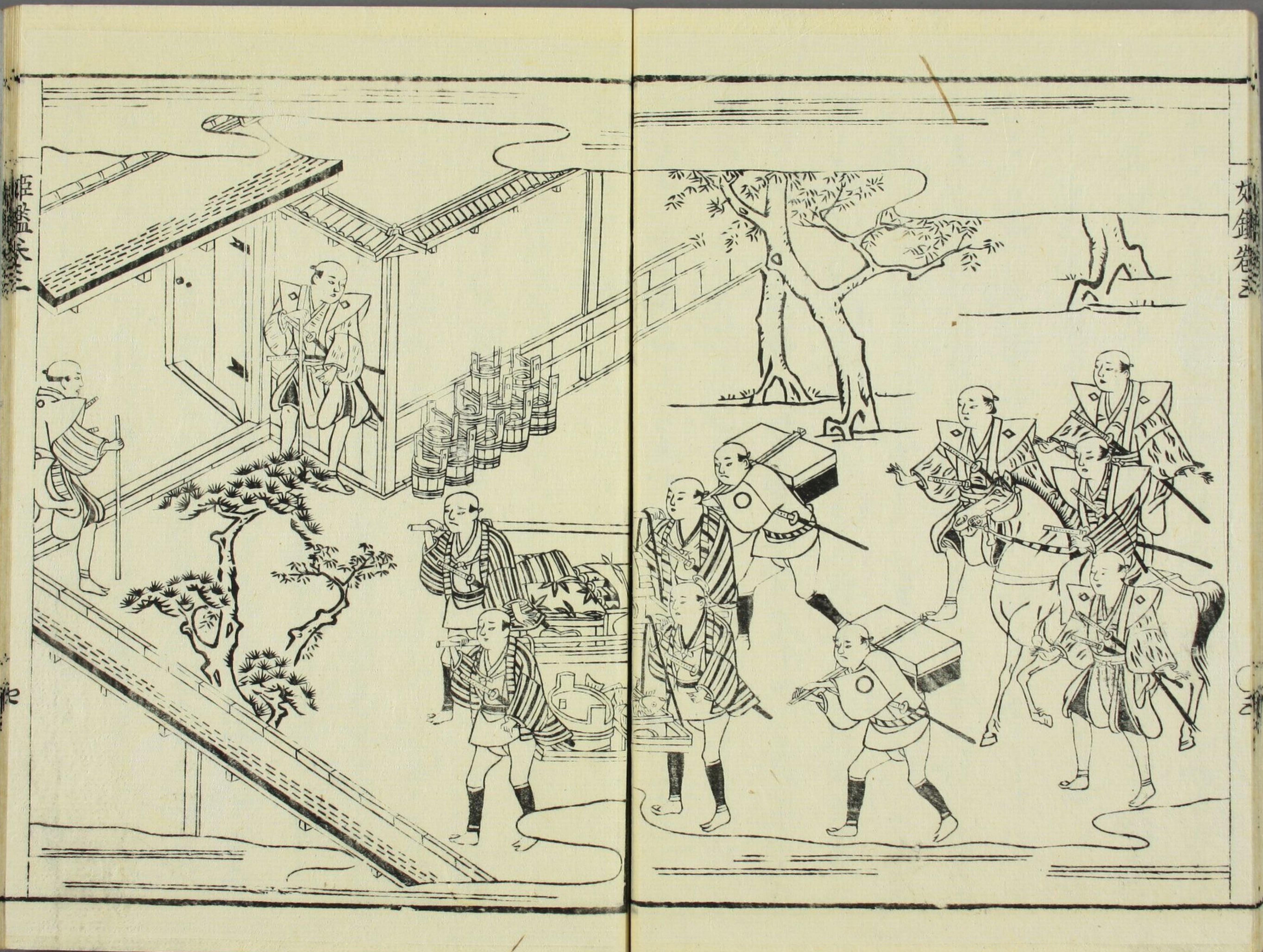
卷之三

此よりは婦人のまことに通じるべからず、小字
明倫の妻婦たりし間もあつて、いとぞく

どもくらむるく陽より静かて清とからずありてこもよき
あり陽のうるわしかりひととまつゆめくらむるや
めくらむれあくらむるい内ようじととくらむるや
じきまつりもの氣地よゆうりてあとまくらば地とくらば
うあくらの形とく様のわづくあらがとハ陽かと云
よもゆひかくはくと地よあぐり男女のふくとくらな女也
やなうあらがひを代ひまわらの内様うのよまくく代久
きておわたりくねうんをもだよかどりて男女のれと
たがふくら福ちわくとあうくじくとがくらのとよも
みうど天代林明よそしとくとくとくとくとくとくと
くとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくと
まぬ定りてかやみかかにざれ祝於れよりくはくさ
度うれ増れをうげせのくらうりえまぬのと細記
乃始とちゆは君臣又えま帰とと細とくまゆるじく時も
そのみるありくとくよにうる事あまびすかくら思よみの
ゆくゆくはくとくとくよつううるがれすりえ増れ、男女二種
のうとあるせらへくとくよつううるがれすりえ増れ、男女二種
とくつうとあらせらへくとくよつううるがれすりえ増れ、男女二種
きをつゝこと事あくまが妻とくろに因姓とあくろびと
氏の因くろとくの先祖むくろとくもくろとく

あらうかくみ縁のすゑへまづまぬのまゝうじ又
男を行嫁あらふあらがむじ名とねそび縁とくろにあ
ざれじゆくじやあくしよどくの因姓よりうづくこ
らすその縁とじよぶがよまび嫁のむとこ女のめゆる
てそのむかひとくわらひあくしゆ男かたびらのめゆ
さうあくその縁とくじよりとくの男女のめゆる
とりあくじゆとくわらひ縁は送也とけあらこ

えもうつよへあとくびつとにあれきよ納采とへあとく
ひく事とひくとくよ向名とくあのあとくとくおとく
らなとくよ納采とくとくとくとくとくとくとくとく
細儀との縁じよびくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
じくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
ゆ湯ゆとて法事の事よとくのあよ告辭とくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく



乳記よりくれはまぬとけしよ姫とおどのれ様
おれ聖人せのへりかくともせざわかとくふとがそ
もくそとをあす事なしとまぬ男女の中とくまそな
れあしとされ様のくわくとすまく男かみうちわる時
ちあくらむかわくとくわくげよぬとくゆうてこそ
さうねよわのゆれあくとくわくとくわく
女すれえあくとくはそのおれへとくとくとくとくと
ゑいやくとおもちくよわくとくきよゆでうたとくとく
あくおのまきれりとくじまふまくとくのゆとあそぶ
もくわくとくれ禮のむかわがよくとくがくわくとく
く後熟のまぐらりのくわくまぬ男かみとくわく
みのむどうりやく乳疎失禮の儀なまられのくわくわく
くとくもんざわのたあくへんよあくびとくも黙と
くとくもんざわのたあくへんよあくびとくも黙と
ありわくと聖人のおまきとけくとくわくとくわく
事と同様とくとくらひの男女のわく明くよすと推定
ての乳うりうがのはくとくとくとくとくとくとく
えよじまなうべしもくとくとくとくとくとくとくとく
え後婦妹えらうとの娘乃とじよ後娘い父のつことより承
渡すく又ひやくとくわくとくわくとくわくとくわく

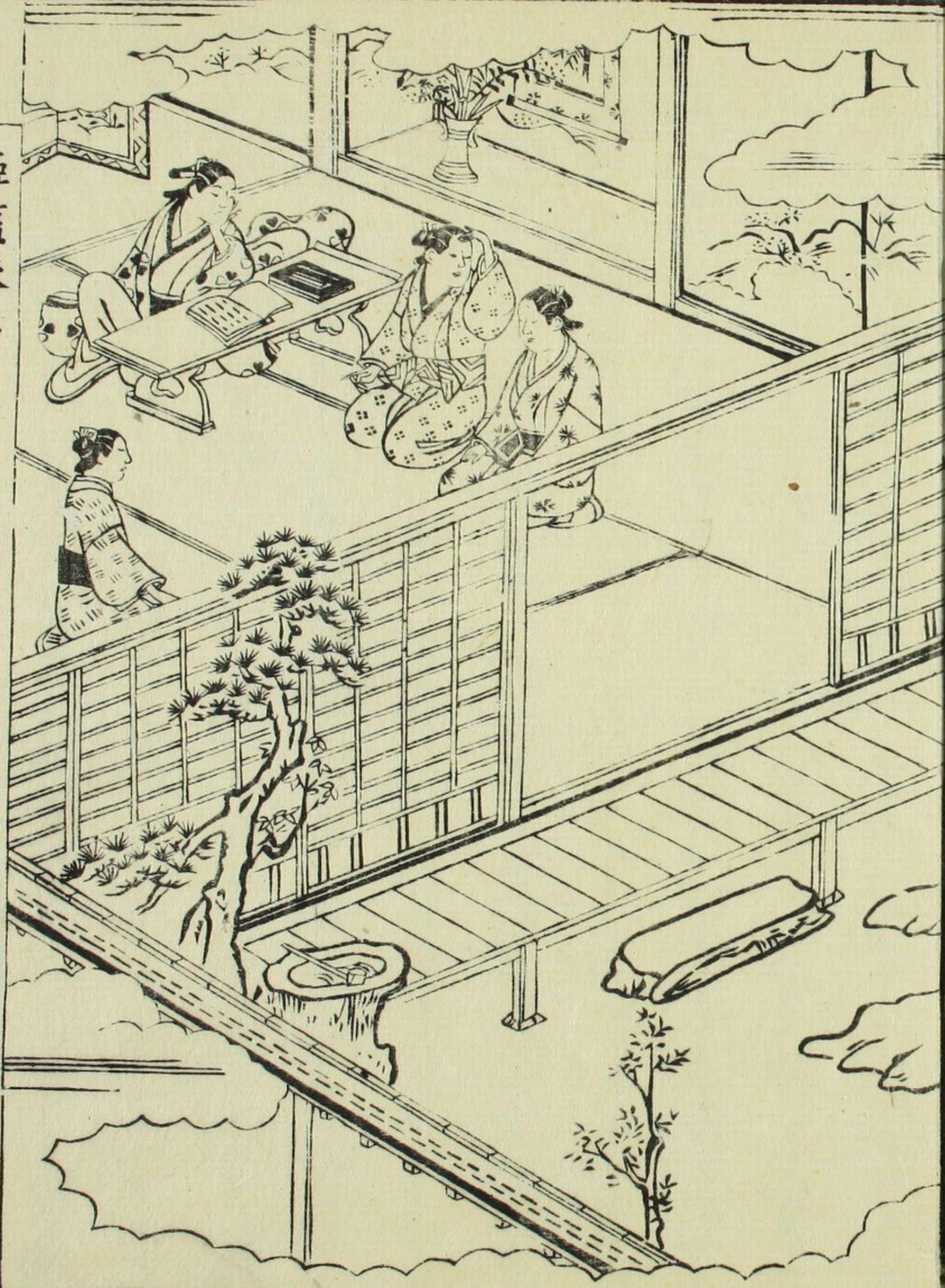
如鏡卷三

卷之三

じきあり未だかからひとのひとうりはい服うりか
属ハ小功以上あと半とそどよりか属ハ妹背きの
ゆうりとも小功の服の名之外戚化姓をとども母のあ称
れうるべ候と云うがひかりうとひともと甥女も云うれ
小功のざきまどかとびそのか又え姫ゆくの姫あど
のじきあれいとひどひなれどもつとも總麻の服よ
て不功うらうらえどゆうてあととととくわくわうがちや
とまめのうわねりあむれの服うぢきてとほく
あみきとあくすとや もぬよいとあくとくわん
父母よしん射ととく事うんおわくわくわくわく
色などて男女のうれひうれもくじわのうじうくくよ
なまく

ひくはよ始まきひとわけの名のあれ開耶
かく大山祇神の御明神をもとぞやけり
毛がよしく根くわく人それとあれもびくと
じゆくあくらむつまうごとくの御門といゆくやかのさくば
え縁をくわくあく人よゑびざうがくわくらうておのふ
あととんとくわくあく人よゑびざうがくわくらうと
あよおわくわくれをあくわくわくわくわくわくわくわく
ちうなとくとくわくらうとくわくらうのせよのかま
ねくくよあくわくすとくわくらうとくわくらうと
してゆくとあくわくわくわくわくわくわくわくわく
とくわくわくわくわくわくわくわくわくわくわく
がたかくじくじくじくじくじくじくじくじく
なうと色もあくのよふとくわくわくわくわく
せきくわくわくわくわくわくわくわくわくわく
脱くとくのよふとくわくわくわくわくわく
わくわくわくわくわくわくわくわくわくわく
もぐりよみびとくわくわくわくわくわく
わくわくわくわくわくわくわくわくわく
すのわくわくわくわくわくわくわくわくわく

わうわうりス衣紙のゆきふうこまくわくとるよ、あじや
とせうわだつまひくよくれとほりへいのねとくじら
のあぐらうされ事なげーかつぬ頃のたどもくうくらてほ
よみのせわうくごくとまうくおほくくろーかつ金と
ス周易よくくとくわうふわうやよわりて然とく機食とそま
ふる食なりかのうもくづくとくがーやあくたく内よむく食ひ
とそくふくねどなりもぬかとくとく食ひれくうとくが
たく食ひのりくとくらふとくがりス益母のとくらもぬ人の
れりえ候とくとく湯藥とちわひ衣裳とくわくとくありえ候とく
ふよひりのあうとくとく湯藥へしけとすとかりかりかくへき



あひくよそもうかふ人のもぐとて酒
食と衣服とじよがくからむらすがくれを
あはせとせんと綴とくわくとじよをも
れ紀よ、七年より男か席と肩くさに食ととどをと
く男女七のきよりちくしゆによわどもがうつと
おと食と又魏の荀爽が女誠よせの男かうともつと
せのじとかわらがらしたのをわたり又明の鄭氏義
三十八年ありじすめ内不とて毋よつもくもあ
うち記よ、支拂のれあ、七十よひく、ちよめ
一會いがと七十のほよへあ、かくらふよとけとぞさ

ま帰男かとぞいわれはよその事すがまほりたひ
きりあるの四かとぞく事いかよより女を内よから中門よ
もあらとすく承たればゆきよふとが男かとちよか
てあるふ小こゑにかう内ともさゆくかよゐのゆとひよ
いふまゆおきくわよ地の里とて地の里のどひ
かるかのよやく裏ふの附たゞてわざう地の里とれどひ
がほとのよしとよめく女をあくへんと見ゆと附ひよと
めくへんとよめく女をあくへんと見ゆと附ひよと
めくへんとよめく女をあくへんと見ゆと附ひよと

とあるのであらまおれじろのへいひゆうとかまじく
もかくはねむとこひかのじくうきやうたのみよほ
くえあうかくに男女かくのあわとせんとく
きくをくわうるのくみとゆきと雪丸あくとくわ
とのくわうらあともゆきとくわくをくわ

ゆりよがくを腰とつけたまど
鄰の家へ範よしとておもひやうめくとも
方よそくしてかくにほ仰あくとあると
きくえくぬあわせを付もあらのかくこゑくと
てりのうべくそれわよへくらのうだくううがく
をあくはじ東のぬかよなびえあやうくよあゆぐりく
ゆるおのるよも十とよあきうゆくいきくわくもくくじが
あくひおくわあくどくとくひくうごくわくとくうくわく
やまくくよくとくあくひくうとくうくわく
さうくくよくとくあくひくうとくうくわく

鄭氏家範よりとて、やまとあきりれ記よりある
あくざれを男かさうざとゆじるどありそへ他姓の男をと
つりあわせのばらかよぢづまとうながわさんど西郷の
妻の妻ふがおからざらざら公文移依びほりまの妻の妻
もうけん國のえひもとあひだれもたがひよきとてあくざ
あくざ家扇れゑれよまの妻ふとあわげづさうがとわうざ
あくざ後室もとぞうりくわかりゆとれみとくわい、男子
乃がれのえびすりふ父氏の婦うすうすまれよかうりと
やめあはせの妻やわらそつへけまくらかくら
れれよくみふ門といづまくもそのおとてくもおとてくも
続くとゆもとゆびなまけすありちやまくとまのむかど
ありく男のあじい中門へへうけへかうけうりれんのいふま
をまけへ地そとうとひくうすびとせんとせんとせん
わくあくわりたまくまくまくまくまくまくまく
まくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまく
がくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまく

人のかくわくもむかわくもん
まよひとおみえあらはりや
やまのとおみえあらはりや

やまとあわやあくとひをうのまつりあゆのちかくはまがのまも
みくねみのあへかくもがまくはくひくもあらそめのわくくに
かくあくやおひへどくくまくひくりていよとたとあやすくまくもえ
ゑきくぢりえ

さうす時へくのとひまにま國とすぐふはへかゞめりやどくの
ぞとくろんぬ姫菜よらうとれんぬへうらのとひま國を
すの室ゆりのうりうわうりやく書とくうがれとくふ
やくこうがべすりれたうへうれと冠とくとく
あくまとみじうとかのうびられだらうえ遷り額延
うぬきひまくわうりとおとて姫菜のあつづまち
ぞれ田よくのとせじまやまうりとくのとせ
あうぬえいきのこむとくあくきふりとくの
わうわじくわあり

とくとくうわめくのゆがあまうるあゆくわく

うろくじよへ後園を新へまわり

まのりとばすとくしをのう花もとよすわく
をとくと通教はまよまアリス

をとくとがくとよとくもとくもとくもとく
柄の花とくとくとくとくとくとくとくとく
うとくとくとくとくとくとくとくとくとく
うとくとくとくとくとくとくとくとくとく
をとくとくとくとくとくとくとくとくとく

う歎よあら川の志なりかみとび人の事よのくはれちやも
かくよどきさるゆべのゆよりりくわふ事おへありての
家源高ちゆみのみひびくよがくくもくがくわゆきと
ぢりすゞは法度のまへらゆある時くやよゆ宣と文也
きく時くそまとほりつてそぞくのくわりくはふくとび
家範よよりのくもかくわりくはふくとびくいふど
りあくらくじくすかでくそめまへくはだとうり
周易よくかの信よ内ふ西一男ハ怪とかよひくと男也
西一もとて北の大義がわとくしてかわえうぐりせりよ
まのそなへくてもやうへざるをあらうちくとくよク
人をばといかよからかへ因よかくそに活セラシの事と
こくらくみどりあくまがくねばく化の大義よしの家もくは
つくるするがくうなりうとくまのけいづらかとやまくと
いよじのくわくじあとくまくとくもくづく四角のくとく
あり男ハ女ハ内よそのくとくがくもく化のたよみ
金くんぐのくわり易よきくくぬ人を圓あて右入りア
あくがひくうまる大義とがとくよもくじごとあやりと貞
あくくくくうまく筋なり女ハ人よもくじごとあやりと貞
りりて左から人のまよもくじごとあやりと貞
かことかよがてあくくじごとあやりと貞

スぬ人のたよらうとせすありかくをあのまうれゆるみのた
もよもよとひうつるといひてなりとねど夏の寒山氏殿の
有革氏周のそに、うきと慶かうてゆくとくらむすら
小内のまうりどめとももかくとまのぬもとひとわり
うひくべとりふまくとうせとほくをほくわとすのすゑ
うゑえよがとめとこしとぬへふのまうりどとみぐり
あらうくに百事とのゑれせと嫁母よりくやづきの百事
の殿乃無モ坦己よりてううび八百年年の周のせと慶祝
もりく中たえきり吉凶のあくわくとくわく

あもよく牝鷦のわたするや即牝鷦はわたすくを
けじくらがりと牝鷦へわともめめぐりうりわたすくを
一なづくらこめぐりへなくねよわくどくなく事あくべ
ゆくもくあくまくわくあもつてうぶすくとくのゆれ
ち政よあくじくじくじくじくよへ事とくまくじくじくと頬
の家訓もくのりとくとくとくとくとくとくとくとくとく
まくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
又きの母とくりじくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
もとくらあとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
豊後ちのあくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく



卷之三

卷之三

ぬ崩るのたかりとてまぬとてひめをあらすまくとも
やくくよそのたとげばとくとも

比叡山巻第三

